



自見国務大臣：お答えをいたします。

11月30日にはチケットも前売り販売を開始されますが、今後は、参加、体験、そして行動する万博への変化といった、万博の意義が変わってきたということに加えまして、ちょうど昨日であります、日本財団が公表した、18歳の意識調査が公表されております。18歳の意識調査では、万博の開催に68.1%が賛成するという結果もございました。

若者からの期待があるということをしっかり認識しつつ、万博に行けばどのようなものが見られるか、どのようなことが体験できるのか、こういった万博の中身をしっかりと発信していくことが非常に重要だと考えてございます。

奥下：ありがとうございます。

今、今月中に発表されると思いますけれども、ある世界大会を大阪に誘致することができまして、来年からやっていくんですけども、その大会も、開催国全において万博のPRのPVを流していただけたらとか、そういったことも我々も取り組んでいっておりますので、是非そちらもまた共有していきたいと思っております。

今まで行われてきた万博もきちんと検証されてきたと思うんですが、**今回の万博は何をもって成功とするのか、総理にお尋ねいたします。**

岸田内閣総理大臣：何をもって成功とするかですが、この万博というもの、世界中から人々が対面で集まり、未来について思いを巡らす、そして未来について考える、こういった貴重な機会であるとされています。

世界と交流を深め、日本の魅力を世界に向けて発信する絶好の機会になると位置づけられているわけですが、特に、大阪・関西万博については、実質的に、

コロナ後初の万博となります。そして、今、ロシアによるウクライナ侵略、緊迫する中東情勢など、世界が対立や分断している、こうした現状を考えましたときに、世界が内向きになっているというときに、世界から日本に集まって人類の未来を考える機会、これは大変大きな意義があると思います。

我が国も例外ではなくして、コロナや激動する世界情勢の中で次々に大きな出来事が起こり、ややもすれば内向きになりがちの中、ここ日本で万博が開催される。こうした万博ですので、**人々が体験、交流し、未来について考える機会、そして日本の魅力を発信する機会、こういったことを実感することができれば、これは万博が成功したという評価につながるものだと考えております。**

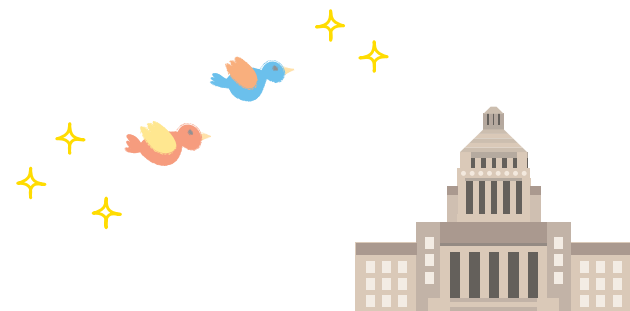
是非、多くの人たちに、今申し上げた意義を実感できるような万博を目指して、オール・ジャパンで取り組んでいきたいと考えております。

奥下：ありがとうございます。まさに総理のおっしゃるとおりだというふうに我々も考えております。

いろいろな立場があるので、いろいろな評価の仕方は当然あるんですけども、当然、税金ですから、やはり無駄遣いというところはきちんと気をつけていかないと、とは思いますが、先ほどおっしゃるように、意義、これがやはり一番大事なかなというふうに思っております。本当に、我が国の経済的、技術的発展のためにもそういう万博があるんだというふうに考えております。

我々日本維新の会は、**大阪・関西万博は、まさに我が国の輝かしい未来に向けた先行投資であり、次の時代を切り開く新たなイノベーションの原動力となる**と信じております。**国を先頭に、大阪府、万博協会、経済界一丸となり、必ずや万博を成功させるという揺るぎない信念の下、全力で取り組んでいく**ことをお誓い申し上げ、私の質疑を終わらせていただきます。

ありがとうございました。



迎春

ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて第212回臨時国会も閉会となりました。皆様もご存じのように法務副大臣・財務副大臣の辞任から始まり、最後は派閥の政治資金パーティーを巡る問題で議論が持ちきりでした。国民の皆様への不信と怒りは頂点に達しつつあります。率先して真摯かつ丁寧に説明して然るべきにも関わらず、司直が捜査中であることを理由に説明責任が果たされていません。政策を遅延なく推進するためには政治への国民の皆様の信頼が不可欠です。目の前には内外の課題が山積みです。物価高を克服できるよう賃上げを軌道に乗せなければなりません。少子化対策も待ったなしです。中国・ロシア・北朝鮮という核を持つ専制国家が隣国にある日本にとって、外交や防衛力を着実に強化することも極めて重要です。

自らの身を正す事さえできない政治家に大改革など重要な政策課題の実現など望めるはずもありません。岸田総理に対しては、国民の政治不信を払拭し、重要政策を確実に遂行果していくために、企業団体献金の完全廃止や、パーティー券のルールを厳格化などにより今回の「政治と金」の問題が二度と起きないように早急に対策を講じる事を強く求めていきます。国会から無駄を一掃する改革や、自民党の抵抗によって放置され続けている、所謂旧文通費の使途公開、残金返納の義務化という政治家としての当たり前前の改革を成し遂げるよう今後も訴えていきます。

今後も日本維新の会にご支持ご声援ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今年一年皆様にとって実り多き一年となりますように



プロフィール
衆議院議員
おくした
奥下 たけみつ

【選挙区】大阪7区(吹田市・摂津市)

【生年月日】1975年10月4日

【学歴】茨木小学校卒業
大阪青凌中学校卒業
履正社高等学校卒業
専修大学卒業

【経歴】元内閣総理大臣 宮澤喜一書生
元内閣総理大臣 宮澤喜一秘書
元外務副大臣 逢沢一郎秘書
元大阪府知事・元大阪市長 橋下徹秘書
第49回衆議院議員総選挙 初当選
環境委員会 理事
予算委員会 委員
倫理選挙特別委員会 委員



Twitter



Facebook



YouTube



Instagram



オフィシャル
ホームページは
こちらから！





第212回国会 衆議院予算委員会 第6号 令和5年11月22日

大阪・関西万博は、我が国の輝かしい未来に向けた先行投資

小野寺委員長：この際、奥下剛光君から関連質疑の申出があります。小野君の持ち時間の範囲内でこれを許します。奥下剛光君。

奥下委員(以下奥下)：日本維新の会の奥下剛光です。

今日の質疑の時間の多くを万博の質疑をさせていただきたいと思っているんですが、その質疑をさせていただく前に、今日の午前中もそうですし、昨日もそう、各委員会で万博の質疑、全部見られているわけじゃないですけども、ちょっとやはり、後ろ向きな、失敗ありきみたいなことで、これはマスコミを含めてですけども、議論されている方が多いんじゃないかなというふうに感じております。せっかく超党派で、万博を成功させる議員連盟、これを立ち上げたわけですから、今日から万博、残すところ508日、全力で、成功するためにはどうするのかという観点で議論を皆様にもお願いできたらなというふうに思っております。

では、質疑に入らせていただきます。

大阪府は2016年11月に万博の基本構想を国に提出しました。当時の安倍首相は、各地を訪れる観光客が増大し、地域経済を活性化する起爆剤になることが期

待されるとおっしゃっていただき、関係省庁に積極的に協力、検討するよう指示を出していただきました。

このとき既に2020年の東京オリンピックの開催も決まっており、更に万博という大型イベントを開催することで、海外からの観光客が増える契機になるとのことで動き出しました。

今、なぜ大阪・関西万博を行うのか、その意義は何か、西村大臣にお尋ねします。

西村国務大臣：お答え申し上げます。

大阪・関西万博、まさにコロナを経験し、そして、今、世界で様々な国際情勢、ウクライナ情勢、中東情勢、緊迫化が続いております。そうした中で、命の重みについてまさに強く意識されているところであります。

そうした中で、今回のテーマ、世界の平和と繁栄につながるよというということで、「いのち輝く未来社会のデザイン」ということでテーマを掲げ、まさに世界の人々の英知も集め、そして、技術、新たなイノベーション、こうしたものも集め、我々が今直面している課題をイノベーション、未来の姿を示すことによって、みんな挑戦して切り開いていこう、こんな万博にし

ていきたいという思いであります。

これができるのは、まさに平和国家として歩んできた日本、そしてイノベーションの力がある日本ということで、先般も、150か国、7国際機関が集まって参加国会議が開かれました。多くの国々から、日本への期待、そして、まさに、すばらしい万博にしていこう、未来社会の実験場としてのイノベーションを示す、そうした機会にしていこうという強い意欲が示された、共有されたところであります。

資料にも明示されておられますけれども、まさに、アンドロイドが命について語りかける、あるいは、iPS細胞の心筋シート、心臓の細胞がどくどくと動く姿、空飛ぶ車、これも実現をしたいと思えます。

多言語翻訳技術の活用など、未来につながるイノベーションを展示をして、多くの人が、未来に向かって、今の直面する課題を乗り越えて、平和と繁栄のために乗り越えていこう、結束してやっていこう、こんな思いを描き得る万博にしていきたいというふうに考えております。

奥下：ありがとうございます。

まさに、私の選挙区は大阪7区で、吹田市というところ、70年代、大阪万博があったところでございます、本当に地域には70年の万博に参加された方が数多くいらっしゃる。僕は当時生まれておりませんでしたが、当時の資料館も地元にも残っておって、本当に、たまたまかもしれませんけれども、期待する声を私は多く聞いております。

次の質問に入りたいと思えます。

海外パビリオンの遅れが大きく報じられておりますけれども、**当初の目標は150か国と承知しておりますが、現在の参加国数や万博全体の進行状況、準備の状況はいかがなんでしょうか。**西村大臣、お願いいたします。

西村国務大臣：まず、会場建設については、博覧会協会が発注する土地造成など土木工事はおおむね完了しております。そして、各種催事場、迎賓館、大屋根、リングなど、既に建設事業者が決定し、順次着工しております。13の民間出展者についても、既にコンセプトが発表され、建築事業者も決まり、また、大阪館や関西広域パビリオンについても順次着工が進んでおります。

そして、海外パビリオンですが、合計160か国のうち、100か国以上が入るタイプB、タイプC、これは博覧会協会が建設するものでありまして、建設事業者も決まり、既に着工済みであります。

参加国が自ら建設する約50のタイプAのパビリオンについては、いずれもまだ着工しておりませんけれ

ども、そのうちの約半分、24か国が既に建設事業者を決定しております。残りの参加国についても、**開幕に間に合うように、今、各国マンツーマンで伴走型の支援をして、建設事業者とのアレンジ、あるいは施工環境の改善といったことも含めて、関係者一丸となって準備を進めているところであります。**

奥下：ある国の万博の代表者の方ともお話しする機会があるんですけども、なかなか彼らの認識の甘いところも正直あるなというふうには感じております。そこを今すぐい厚くサポートしていただいているという声も聞いておりますので、是非間に合わせていただいて、今、160か国ということで、上海万博に次いで2番目の参加国予定となっておりますので、是非、こちら頑張りやって進めていただけたらなというふうに思います。

次の質問に入ります。

命がテーマの今回の万博ですが、テーマプロデューサーには名立たる人物が集まっておりますが、企業館も様々な企業が参画されております。

どのようなことが体験できるのか、現段階で言える範囲で結構ですので、自見大臣に御教示いただけたいと思います。



自見国務大臣：お答えいたします。

大阪・関西万博では、日本を代表する企業、プロデューサーがパビリオンを出展していただくこととなっております。私自身も、10月4日と18日と2回にわたり開催されました民間パビリオンの構想発表会にも参加をさせていただきました。

また、委員お示しいただきましたが、それぞれのテーマ、シグネチャーパビリオンともいいますが、出展していただきます8人のプロデューサーと現在、順次意見交換をさせていただいているところであります。皆様、創意工夫にあふれた展示ですとか、あるいは万博に向けた熱意があふれております。特に、子供たちや若者たちにも夢を、あるいは希望を与えられるような万博にしてほしい、したいという思いを聞いており

まして、私もそうなる日々確信を強めているところでございます。

例えば、石黒浩プロデューサーは、50年後の未来のシーンを表現すべく、協賛企業と2年以上議論をして、アンドロイドロボットが命について語りかける交流体験を企画していると伺っております。また、小山薫堂プロデューサーは、食をテーマに、食べ物から命を、食物連鎖等で、そういったもので意識をしていただくような企画、これをスーパーマーケット等で、人間が一生で食べる食べ物を、動物とか卵とかそういったものも含めて、分かりやすく展示をして、感謝の気持ち、いただきますという言葉が自然に出るような、そういうような思いを抱いていただけるようなパビリオンにしたいということもおっしゃってくださっていました。

また、民間パビリオンでは、パソナグループが、人とテクノロジーの共生の象徴であります鉄腕アトムを起用し、先進的な再生医療の技術を紹介するというところであります。また、息をのむ美しさでございましたが、飯田グループホールディングスは、直径24メートル、高さ13メートルのドームを西陣織で覆うパビリオンを予定しているということでございまして、各パビリオンの外観も非常にこだわっておられまして、散策をすると思うと私もわくわくしております。

今後、万博の開催に向けて具体的な出展内容が順次発表されていくこととなりますが、政府といたしましても、こうした魅力的なコンテンツをしっかりと発信し、機運醸成を進めてまいりたいと考えております。



奥下：ありがとうございます。

こうやって見ていただいても、民間パビリオン、次々と発表されているわけですが、先ほど申し上げたように地元の方々の期待も当然ですが、本当に万博以上に人、物そしてお金を呼び込めるコンテンツはないというふうに思っておりますので、是非成功に向けて共に頑張っていきたいと思っております。

そして、関連しまして、命というテーマに関して、健康寿命と医療費の関連についてお尋ねします。

内閣府の資料によりますと、健康寿命が1年長い都道府県では一人当たり医療費が約31,000円低いという関係が見られております。**今回のテーマの一つでもあるアンチエイジングにより、健康寿命を延ばしていくことにより医療費の削減にも寄与するのではないかと考えますが、総理の御見解をお聞かせください。**

岸田内閣総理大臣：健康寿命の延伸と、そして医療費の削減、この両者の関係についてはいろいろな議論があり、様々な研究があります。ですから、今現在、必ずしも確立した評価が得られているものではありませんが、政府としては、国民健康づくり運動であります健康日本21において、食生活、運動を始めとする生活習慣の改善など、ライフステージに応じた健康づくりの取組を総合的に推進してきております。

ただ、この健康寿命の延伸は、国民のQOL、要するに生活の質、これを高めていく、これにつながるんだということは間違いないと認識しており、今後とも健康寿命の延伸には政府として積極的に取り組んで

いきたいと考えております。

奥下：ありがとうございます。

是非、確かなエビデンスはないと思っておりますけれども、今は女性だけでなく男性も美容にこだわる時代ですので、是非どんどん進めていただけたらなというふうに思います。

次の質問なんですけれども、先ほどちょっと触れられておりましたが、リングですね、やはり避けて通れないと思っておりますので、**このリングの意義と現在の建築状況、これを西村大臣に御説明いただけたらというふうに思います。**

西村国務大臣：御指摘の、万博で建設予定の木造建築物の大屋根、リングでありますけれども、コロナ禍でありました2020年に博覧会協会の理事会で決定した基本計画に位置づけられております。まさに、コロナ禍の中で、分断を超えたつながりというものを体験する、「多様でありながら、ひとつ」という大阪・関西万博の理念を表すシンボルとして当時決定されたものと承知しております。その決定の際には、理事となっています府市、経済界を含めた協会内はもちろんのこと、国におきましても、管理監督を行う経済産業省を中心に検討が行われ、その中で決定されたものと承知しております。

まさに、コロナ禍にあって、「多様でありながら、ひとつ」という万博の理念を示すシンボルとして決定されたものであるということが一つ。それから、木造で、再利用することを想定しております。まさにサステナビリティ、サーキュラーエコノミーの象徴でもあるというふうに認識をされておられて、現に、終了後は利用したいという方も現れてきております。

以上のことから、**リングは、これまでの経緯を見ても、今回の大阪・関西万博の理念、そしてプロセスを見ても、この万博会場に欠かせない建築物として認識をされているところ**であります。

その建築状況でありますけれども、まず、先ほども少し申し上げましたが、**リングを建設するに当たって必要な資材は既に全てもう発注済みでありまして、物価上昇も込みで、見越して発注済みということでありまして、基礎工事も全て着手済みでありまして、木造構造体の組立ても約35%進捗しているというふうに承知をしております。**

奥下：ありがとうございます。

このシンボルが決まったのがコロナ禍ということで、当時のテーマが、非中心、離散というのがテーマでつくられたというふうに理解しております。先ほどもおっしゃっていただいたように、多様性の時代の中、円の中心で、個人が中心に輝けるような社会をつくっ



ていこうというテーマをつくられたので、よくこの議論が、半分にしたらいんじゃないかとかありますけれども、それで建設費が半分になるんじゃないかとか、そんな単純な話では正直ないと思っております、テーマもやはり大事ですので、こういったことをどんどん発信していただけたらなというふうに思います。

次の質問に入ります。

先日、大阪でIPMが開催され、諸外国が集まって議論が行われたと承知しておりますが、報道では撤退が大きく報じられておりますが、**IPMの場ではどのような議論がなされ、どのようなメッセージが出されたか、御紹介いただけないでしょうか。**

自見国務大臣：お答えいたします。

11月14日から15日まで、大阪でIPM、国際参加者会議が開催されました。約150か国、そして7国際機関から約500名が参加をいたしました。

IPMでは、博覧会協会から、会場整備、そして催事の計画、国際パビリオンの建設、展示、また運営計画など様々な分野に関わる説明を行ったほか、参加国からの実務的な問合せを受け付ける窓口としてワンストップショップを設置いたしました。600件以上の各国からの相談に丁寧に対応させていただきました。IPMに参加をした国々からは、こうした実務面への関心が強く寄せられ、活発な意見交換が行われたと聞いてございます。

また、**日本に対しては、ホスト国としての世界への発信や、あるいは万博のテーマに沿った各国の出展への後押しについて強い期待が寄せられた**とも聞いてございます。

会場は一体感でいっぱいだったと聞いております。例えば、IPM1日目の参加者代表による集合写真においても、参加国からの発案で、2025年4月に会いましょうというバナーを掲げまして、本当に一体感となって、そして実際に一体となってメッセージを世界

に発信したところでもございます。

また、私自身は日程の都合でIPMには参加はできませんでしたが、各国の大使や政府代表と現在意見交換も行っておりまして、皆様の万博に対する熱意を感じているところであります。

引き続き、オール・ジャパンで、万博の開催に向けた準備をしっかり進めてまいりたいと存じます。

奥下：ありがとうございます。

先日、オーストラリア大使は、オーストラリアでも独自の万博のマスコットを作るとかおっしゃっておりまして、海外の代表の方とか、聞いていたら、本当に目を輝かせながら、あれやるんだ、これやるんだみたいな、前向きな話しか聞こえてきていないので、是非、受皿として、きちんとここをサポートしてやっていただけたらなというふうに思います。

次の質問に移ります。

今、SNSで、脱北した家族や韓国のカップルが日本に旅行に来て、日本の文化に触れ、そういった動画がよく発信されているんですけれども、そういった方々が、我々の国で日本に対する教育は何だったのか、全然違うじゃないか、こういったことを言われているんですね。多くの同郷の人たちにこの日本のよさを知ってもらえたらということをおっしゃっておられます。

25年の後の万博を釜山が誘致で動いていることから、25年の万博には韓国から多くの方が来られることが予想されます。また、**今、参加国にはパレスチナも参加予定ということで、大使は、むしろこういふときだからこそという強い思いがあるというふうに発言されて、撤退を否定されておりますが、これは外交的にも大いに大切な場で、機会になるかと思うんですけれども、上川大臣のお考えをお聞かせください。**

上川国務大臣：委員御指摘のとおり、大阪・関西万博は、日本の魅力、これを国際社会に広く発信する大変絶好の機会であると考えております。外交的にも極めて重要な国家的な行事と認識しております。

日本の魅力発信に加えまして、今回のテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」ということですが、**2030年までのSDGs達成への重要な通過点として、国際社会の取組をアピールし、そして加速する、そうした面での機会としても活用してまいりたいと考えております。**

万博の開催は日韓間の交流にも大きく資するものと期待をされるところであります。先週、APECの外相会議におきまして、朴振韓国外相との間で、民間の様々な対話、また交流の動きを引き続き後押しをしていくということにつきまして一致をしたと

ころであります。

世界の各国の皆様をお迎えすべく、外務省といたしましても全力を挙げて準備に当たってまいりたいと考えております。



奥下：ありがとうございます。よろしく願いいたします。

建設費の値上がりばかりが目立って言われているわけですが、このようにきちんと見直すところは見直してやっているということは承知しておりますが、経済効果の数字が取り上げられることがちょっと少ないかなというふうに感じております。

今現在の経済効果の試算はどうなっているのでしょうか。西村大臣にお尋ねします。

西村国務大臣：大阪・関西万博の経済波及効果についてであります。経産省におきましては、平成28年、少し前になりますが、万博により増加する支出を基に、産業連関表、マクロモデルを用いて試算を行っております。**約2兆円の経済効果を見込んでおります。**

その内訳は、建設費0.4兆円、運営費0.5兆円、消費支出1.1兆円ということで、建設費以外にも、運営、イベントに係るものであるとか、あるいは来場者の消費、こういった費用、こういった効果を波及効果として生むものというふうに見込んでおります。

また、国が行った試算以外にも、大阪府あるいは民間企業など、幾つかの主体がこの大阪・関西万博の経済波及効果の試算を行っておりまして、経産省の数字よりも大きくなるものもありますし、直近では、建設費が伸びている分、通常であればその分は更に大きくなっていくものと思いますが、いずれにしても、しっかりと素晴らしい万博にして、多くの人に来てもらって、大きな経済効果があるようにしていきたいというふうに考えております。

奥下：ありがとうございます。

試算したのがちょっと前のことではありますので、物価高騰とか資材高騰により建設費が上がっている。ただ、経済効果の方にはそれが今試算されていないということなので、これは当然上がっているはずなので、それでも2兆円を超えるであろうというところが、いろいろ数字が出ております。当然、万博を中止せよとかいう話もありますけれども、この経済効果と、我々は今投資と呼んでいますけれども、効果と呼び込むための投資、これがやはり差があって、これを利益と呼ぶ言い方がいいのかは別として、そこがある以上は、まだそういった、簡単に中止を検討するような段階ではないというふうに考えております。

次の質問に入ります。

万博のインバウンド効果は、大阪のみならず、当然地方にもメリットがあると思いますが、どのような見込みで、どのように最大化していく予定か、自見大臣にお尋ねいたします。

自見国務大臣：お答えいたします。

大阪・関西万博には、海外から350万人の来場者を見込んでおります。世界中から万博に訪れる多くの方々に、是非日本各地を訪問していただき、日本の魅力を体験してもらえらる絶好の機会にしたいと考えております。

万博がもたらすメリットを日本全国が享受できるように、全国の交流人口の拡大を目指します万博交流インシアチブを打ち出しておりまして、万博を契機に全国の地域の活性化につなげていく取組を進めているところでございます。

具体的には、開催中、各国のナショナルデーというものがございまして、そのナショナルデーなどに海外妹都市を持つ自治体が参加をするなど、全国の自治体



と参加国との交流の機会の創出ですとか、あるいは、2025年には、同じ時期になりますが、瀬戸内国際芸術祭を始めとして各地で開催される芸術祭やスポーツイベントなどもございまして、そういったものとの連携も予定をしているところでございます。

さらに、今般の補正予算におきましては、万博を契機として、開催後も地域活性化につながる取組を全国で一層進めていくため、4つを掲げてございます。一つが、全国の子供たちの、万博の学習機会への活用につながる出前授業等の実施、もう一つが、全国の自治体と万博参加国の交流の促進、そして、自治体が万博の機運醸成のために地域の文化資源を活用して実施する文化芸術活動への支援、そしてさらに、最後になりますが、万博を契機として都道府県において新たに実施する地方創生に資する取組への支援でございます。

これら各府省庁との連携をいたしまして、合計約30億円を計上しているところでございます。

これらの取組も通じまして、**全国の自治体としっかりと協力をしながら、各地で行うイベントとの連携や、外国人観光客に全国の日本の素晴らしい魅力、観光地を訪問してもらえるような取組を進めてまいりたいと考えてございます。**

奥下：ありがとうございます。

万博の意義、体験できる内容をもっと積極的に発信していくべきにもかかわらず、全国的に十分に発信されておりません。**ネガティブな報道が多いのも万博のプロモーションがうまくいっていないのが要因の一つと考えますが、今後のプロモーションや全国的な機運醸成にどのように取り組んでいく予定でしょうか。**

自見大臣にお尋ねいたします。